

だれもが住み慣れた地域で、安心していきいきと暮らせる福祉のまちづくり きよさと社協だより

～ 社協(しゃきょう)は、社会福祉協議会の略称です。～

2022. 10月

No. 158

令和4年10月15日発行

じぶんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金

10月1日～12月31日

♪ 困ったときは、おたがいさま



♪ 支え合う人たちがいる

ひとりでとりの小さな社会。その社会に「誰かの助けになりたい」という気持ちをもって
 千人万人、千人と集まれば、大きな力になります。赤い羽根は、小さなことをしています。
 小さな活動がたくさん、何千何万と集まれば、大きな力になります。赤い羽根は、大きなことをしています。

意志あるお金、募金のチカラ。

赤い羽根共同募金



目標額

1,500,000円



10月1日から「赤い羽根共同募金運動」が全国一斉に展開されております。皆様から寄せられた募金は、社会福祉協議会の事業や、清里町での福祉活動を行っている団体への事業、北海道の福祉施設や福祉車両の購入、行事用テントの助成、災害支援活動に助成されております。

期間は、10月1日～12月31日までとなっております。

新型コロナウイルス感染症感染拡大などを受け大変厳しい状況とは存じますが、皆様の温かいご寄付をお願いします。

主 目 次

P2

赤い羽根共同募金運動について

P3

社協ほっと通信・ボランティアステップアップ

P4～5

シリーズ認知症を知ろう！～第3回～

P6

ご寄付ありがとうございました

編集・発行 社会福祉法人 清里町社会福祉協議会 清里町羽衣町 35 番地 35 TEL 22-4840 FAX 26-7583



この社協だよりは、赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金の配分を受けて発行しています。



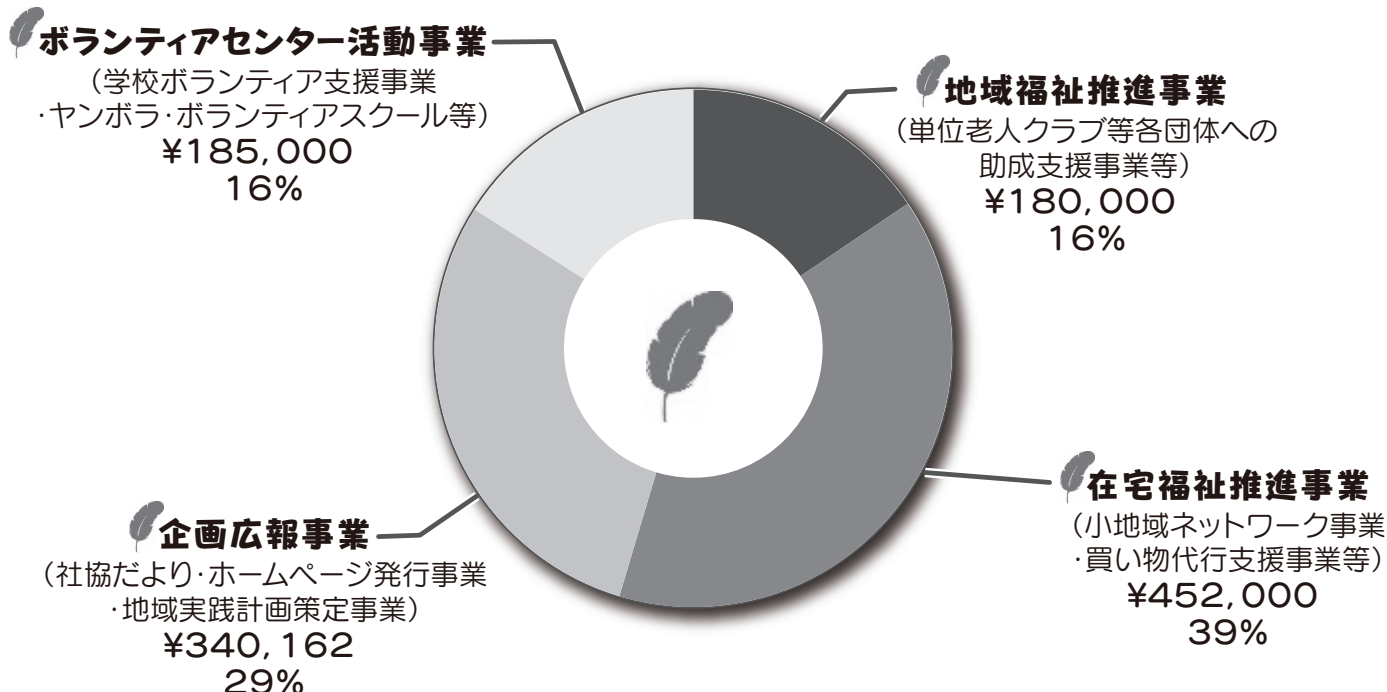
清里町社会福祉協議会ホームページのQRコードができました。ホームページでは、清里町社会福祉協議会からのお知らせや事業の概要を紹介しております。皆さんお気軽にアクセスして下さい。

赤い羽根共同募金ってどんなしくみ??

共同募金は、事前に使い道の計画を立ててから募金を行う「計画募金」です。

地域で寄せられた募金の7割以上がその地域で活用され、残りは道内全域での福祉に活用されます。

令和3年度は、17事業に赤い羽根共同募金配分金を使わせていただきました。



いろいろな募金方法

- ◆戸別募金：各家庭を対象
- ◆法人募金：企業・事業所等を対象
- ◆街頭募金：通行人を対象
- ◆職域募金：企業・団体の従業員を対象
- ◆学校募金：福祉教育を目的として児童・生徒を対象
- ◆イベント募金：イベントによる募金
- ◆自動販売機による募金

共同募金の災害の対応

1995年の「阪神・淡路大震災」では多くの災害ボランティアが活躍しましたが、当時はボランティア支援のための資金制度はありませんでした。

こうした状況を踏まえ2000年の社会福祉事業法の改正では、共同募金が災害ボランティアの救援活動の支援を行えるよう、災害時に備えて寄付金の一部を積み立てる「準備金」という制度を創設しました。

道内では、「平成28年8月20日からの大雨（台風9・10・11号等）」災害の際に、総額1,510万円が南富良野町や十勝管内3町の災害ボランティアセンター等に助成され、胆振東部地震災害の発生時には、同じく災害ボランティアセンターの設置のため、厚真・安平・むかわ3町に総額2,345万円が助成されています。



募金期間中募金をしていただいた方に、募金額に応じて「北海道日本ハムファイターズ」「コンサドーレ札幌」等のクリアファイルや缶バッジをお渡ししております。

ご希望の方は社協窓口までお越しください。

にぎわいまつりに 参加しました！！

9月4日（日）に町民ふれあい広場で開催された「きよさとにぎわいまつりinきよ～る」に出店させていただきました。

ポップコーンのお店や社協事業のPR活動、清里町共同募金委員会では赤い羽根共同募金活動をさせていただきました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により数年ぶりの大きなイベントということもあり、たくさんの皆さんが来場されお祭りを楽しまれておりました。



また、多くの皆様にお立ちよりいただき、たくさんの募金をいただきました。

また、多くの皆様にお立ちよりいただき、たくさんの募金をいただきました。

第2回まんまるカフェ OPEN!! ～膝をつけあわせた交流を～

9月14日（水）町民活動施設（パパスランドさつづる横）にて、札弦第1・第2自治会のみなさんを対象に、第2回まんまるカフェを開催しました。

歌いながら体を動かす認知症予防プログラム「コグニサイズ」や、レクリエーションなどを行いました。

参加者からは、「体があたたかくなった」「楽しかった」との声がありました。

まんまるカフェは今後も継続的に開催予定です。



当日はなんでも相談の時間も設けております。ぜひお気軽にご参加ください。



ボランティア スタッフ up



収集ボランティア活動報告

清里町社会福祉協議会では町民の皆様からご協力をいただき、収集ボランティアを行っております。

ペットボトルキャップや古切手・書き損じはがき、リングプル、ベルマークの収集を行っております。

収集ボックスについては、保健センター入口のみとなっております。また収集時は以下の点にご注意していただきますようよろしくお願いいたします。

○ペットボトルキャップ



× しょうゆ等の蓋



× 汚れがひどい

○リングプル



アルミのリングプル

・アルミ製のリングプルは収集しています。
・スチール製のリングプルは収集できません。磁石でつくものはスチール製です。

ヤングボランティア体験ワークキャンプ

7月27日（水）ヤングボランティア体験ワークキャンプを開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、内容を変更し対面ではない方法での開催をいたしました。

今年は清里高校ユネスコ部の皆さんが「夏の花火大会」をイメージした作品作成を行いました。

出来上がった作品は直接はお渡しできませんでしたが、入所者の方が見て楽しんでいただけるよう特別養護老人ホーム清楽園と介護老人保健施設きよさとへお届けしました。



シリーズ認知症を知ろう！～第3回～

9月の広報きよさとにも、清里町の認知症への取り組み事例が取り上げられ、目にした方も多いかと思います。

「シリーズ認知症を知ろう」第3回目も、清里町での認知症への取り組みについてお伝えします。

厚生労働省では、認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる「共生社会」を目指しています。

清里町社会福祉協議会では、清里町の委託を受け、様々な認知症への取り組みを行っています。

今現在悩んでおられる方はもちろんですが、これら取り組みについて知っていることで、身近な人の助けになることもあります。

認知症初期集中支援チーム

認知症の疑いがある、もしくは認知症を発症しているにもかかわらず、適切なケアを受けていない人を対象にしたチームであり「ケアを受けていない人達が適切なケアに結び付くこと」を目的として結成され、清里町では平成**30年3月**に設置となりました。

自宅で生活されており適切なケアを提供できる環境につなげることで認知症の進行を防ぎ、自立生活の継続を目指すことができます。

40歳以上の清里町民で、自宅で生活しており、認知症の疑いや症状などでお困りの方を対象としています。

清里町のチーム員は、認知症サポート医、保健師、社会福祉士で構成されています。

家族が認知症の疑いのある人を専門医に受診させたいと思っても拒否し、なかなか受診につながらない等といった場合に、どのように支援をしていくかをチーム員会議で話し合います。その後、チーム員が訪問を通して適切なケアに結び付けられるよう支援をします。

認知症サポーター養成講座

「認知症サポーター」とは、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対して「**できる範囲で手助けをする存在**」です。

全国で「認知症サポーター」を養成し、**認知症高齢者に優しい街づくり**に取り組んでいます。清里町でも同講座は開催され、これまでに延べ311名の方がサポーター養成講座に参加されています。

認知症の専門知識を持った地域包括支援センターの職員が各種団体の集まりや職場などに出向き、認知症に関する約90分の講座を行います。講座の開催を希望される団体がありましたら、お気軽に地域包括支援センターまでお問合せください。



SOSネットワーク事業

認知症等により行方不明になる可能性のある方を事前登録し、行方不明事案があった際にはいち早く発見、保護するため、協力事業所などへ情報を提供し協力を依頼します。

清里町内の事業所で、現在90か所の事業所が協力事業所として登録しています。

毎年秋頃「行方不明を想定した発報試験」を実施し、協力事業所宛てに出した情報が正しく届いているのかを確認しています。詳しいことが知りたいという方は、地域包括支援センター（電話25-2943）にお問い合わせください。



認知症への主な取り組みについてお伝えしましたが、この他にも認知機能改善効果のある「ふまねっと運動教室」を実施しています。10月からは秋教室を予定しています。多くの方の参加をお待ちしています。（詳しくは広報折込みをご確認ください）



「認知症になると何もできなくなる」という間違った認識が少なからず残る中、これからは「認知症の人本人が自らの言葉で語り、認知症になっても希望を持って前を向いて暮らすことができる姿などを積極的に発信することができる街づくり」が求められています。

認知症の人が発信できる街であるためには、私たち一人ひとりが認知症について正しく理解し、「他人事ではなくわがこと」として考え、取り組む必要があると思います。

認知症への取り組みに少しでも興味を持ち、何かを一緒に取り組みたい！と思う仲間が少しずつ増えていけるよう地域包括支援センターとして今後も活動を行っていきます。

ご相談・お問い合わせは…

お気軽に**清里町地域包括支援センター**まで!!

社会福祉士・主任介護支援専門員・保健師が対応します。

電話：0152-25-2943 FAX：0152-26-7583



ご寄付ありがとうございます

皆様の心温まる善意は、地域福祉のために大切に活用させていただきます。
(令和4年7月6日～令和4年9月30日)

社会福祉協議会 介護老人保健施設きよさと ケアハウスきよさと

【寄付金】

◎親族の死去に際して

- ・成戸昌道様(上斜里)
- ・只野洋子様(羽衣町南)
- ・岩井栄子様(羽衣町第1)
- ・佐藤初子様(羽衣町第1)
- ・齊藤学様(羽衣町第2)
- ・堀田迪子様(水元町第2)
- ・大田禮子様(新町)

- ・塩澤達也様(水元町第2)
- ・熊谷洋一様(神威中)
- ・石川富士夫様(神威第1)
- ・西原千代松様(札弦町第1)
- ・佐々木一子様(斜里町)

◎地域福祉のために

- ・桑島圓美様(江南第3)

【寄贈品】

- ・堀田迪子様(水元町第2)
- ・美馬廣子様(向陽北)

- ・外川千代子様(札弦町第1)
- ・水元町第1自治会女性部様



サロン活動の応援をしています！！

清里町社会福祉協議会では、自治会ボランティアや各団体で行っているサロン活動等に関するご相談に対応することができます。

「サロン活動を行っているが、内容に困っている」

「サロン活動を検討しているがどうやってすすめていったらいいだろう??」

「感染対策はどうしたらいいの??」

新型コロナウイルス感染症感染拡大や会員の減少などにより、人が集まる機会が中々難しくなってしまった昨今ですが、工夫をしながら少しでも皆さんが住み慣れた地域でのサロン活動を通して交流することを継続できるように一緒に考えるお手伝いをいたします。

日頃の活動の中でお困りごとがありましたらお気軽にご相談下さい。



あの日を忘れない～胆振東部地震から4年～

胆振東部地震は、平成30年9月6日未明に、北海道胆振地方中東部を震央として発生した地震で地震の規模はマグニチュード6.7 最大震度は震度7が観測され全道各地でブラックアウトも発生しました。

清里町でも地震が観測され、数日に渡りブラックアウトとなり、私たちよりも大先輩である高齢者の方々も「生きていた中でこんな停電は初めてだ。」とお話になられるほどでした。

発災直後は、防災グッズの確保や災害が起きた時の連絡の仕方などを検討された方も多かったですが、月日が経つと人間は忘れてしまうものです。是非9・6の節目を機に今一度防災グッズ等の確認をしてみましょう。また、防災グッズに入っている食品の賞味期限も一度ご確認してみてください。

